

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600041		
法人名	社会福祉法人 両沼厚生会		
事業所名	グループホーム結和		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町字中岩田91		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年2月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心を紡ぎ、地域の中で穏やかな生活が出来るよう寄り添います。」  
 基本理念を中心として、自分だったらどうして欲しいのか、入居者の立場で物事を考え対応していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所では、コロナ禍で自粛生活が続く中で、利用者の意向や思いを大切に生活の支援に取り組んでいる。食事では、利用者の希望を確認しながら献立を作成し、米とぎや食材切り、調理、味見など一人一人できる範囲で食事づくりに参加してもらい、楽しんでいただけるよう取り組んでいる。また、ドライブを兼ねて自宅の積雪状況を確認に外出し安心していただいている。  
 2. 職員は各種研修(オンライン)に積極的に参加し、職場内伝達研修で共有しそれぞれがスキルアップを図ることで、利用者の穏やかで安全な生活に繋げている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員全員で、作成した理念を玄関に掲げ出勤時に各自確認し、理念に基づいた対応が出来るよう心がけている。会議で意識が薄れないよう再確認し、また定期的に理念の見直しを実施している。	事業所理念は、職員が常に意識できるよう玄関と事務室に掲示し、会議等で確認し、理念を念頭においたケアを実践している。また、理念の振り返りはチェックリストでの確認と、年度末に見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、コロナ禍により行事等に参加していない。冬期間以外は施設周辺の草むしり等を行い近所との交流や環境整備に努めてきた。また運営推進会議で地域の方から意見を頂いている。	町内会に加入している。地域の各種行事は、新型コロナ禍で中止されているが、地区長が地域情報や広報誌等を届けてくださり利用者に回覧している。日常的には、散歩や事業所周辺の草むしりの際に、地域の方と挨拶を交わすなどの交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、敷地内全体で認知症サポーター養成講座を受講。運営推進会議等で認知症ケアの勉強会の資料を添付し地域や町に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域の方や家族に委員として参加して頂き、情報を公表して意見やアドバイスを頂いている。また施設内勉強会の資料を添付し、取り組み内容を提示している。	運営推進会議は、新型コロナ禍のため、書面開催としている。各委員には利用者状況やヒヤリハット・事故、行事、職員研修等について報告し、書面で意見や励ましをいただき、サービスにつなげている。また、家族と利用者は輪番で参加しており、書面会議開催中でも、利用者は委員会開催の都度管理者と面談し意向や希望を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議として町の担当職員や地域包括支援センターの職員にも、意見やアドバイスを頂いている。コロナ禍であるが町の状況などを教えて頂いている。	町担当者とは、運営推進会議委員に委嘱しているほか、事業所の現況報告や介護給付・介護保険更新等で相談し意見をいただくなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての内部研修を行い、職員全体で理解を深められるよう取り組んでいる。また行動や言葉の拘束についても行わないようチェックリストを実施し支援の振り返りをしている。予測されるリスクについても家族と相談している。	身体拘束に関する研修を定期的に開催し、身体拘束の及ぼす影響や具体的内容等について、自己チェックを実施しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、管理者や身体拘束廃止委員は、会議等でスピーチロックについて注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は介護福祉士や実務者研修受講者であり、虐待に関する知識もある。定例会議にて虐待防止について話し合い、理解を深めるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方と関わりを持ち、関係機関や後見人と情報を共有し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書等を用いて説明し、理解し納得して頂いたうえで契約締結している。また料金改定時にも書面にて説明し納得を得たうえで手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に順番で、入居者様ご家族様に意見を頂いている。その意見を定例会議にて報告し、職員間での会議に反映させている。	日常生活の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握している。食べたい物、行ってみたい所などを把握し、希望に応えられるようにしている。家族には、毎月のおたよりを通じて利用者の生活状況を知らせ意見を聞くよう努めている。また、運営推進会議には、利用者・家族が輪番で出席し、意見を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの際に随時意見を出してもらい、管理者も含め、職員間で対応を検討している。また定例会議でも見直し点の話し合いを行っている。必要に応じて代表者に報告している。	管理者は、日頃から職員が意見や要望を言いやすい環境作りを心がけている。また、申し送り時や各種会議の中で、職員の意見・提案を聞き、運営に活かしている。法人との個別面談があり意見や要望を吸い上げる仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇の希望を反映させた勤務表作成に努めている。また労働時間も定時で退勤できるようにしている。代表者が年1回個人面談を実施。時折、事業所へ出向き、職員の状況を把握し働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会での勉強会の開催やZOOM等のオンライン研修に参加し、学んだことを職員間で伝達研修を行い、学びの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や町のGH連絡会に加入し研修会等に参加している。研修会にもzoom等で参加し他施設との交流を心がけている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人家族、関係者からの情報を基に、質不安に対しての説明を行っている。入居時は本人の言葉に耳を傾け些細な状態変化を見逃さないよう職員間で協力し合い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約説明時や入居後も状況報告を行いながら、ご家族の不安や要望を伺い支援に反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に話を聞き、必要があれば他施設の紹介も行っている。担当ケアマネージャーに連絡したり、無理のないサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般(調理、清掃等)を能力に応じて職員と一緒にしている。また畑仕事や地域的な風習なども入居者に確認しながら協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、手紙、毎月の状況報告で現在の状況を伝え、情報共有に努めている。受診等は家族の協力を頂き、本人と家族の絆が切れないう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と定期的に美容室を利用されたり、町内の訪問美容を利用している。通院も家族や外部サービスを利用し、かかりつけ医の受診を継続している。家族へは、いつでも電話での対応は可能なことを伝えている。定期的に娘との会話や、友人との手紙のやり取り等行っている。	家族との定期的な電話での会話やかかりつけ医の通院同行、友人との手紙での交流を支援し、馴染みの関係が継続できるよう行っている。また、ドライブを兼ねて自宅の積雪状況の確認にかけ安心していただくなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状や性格、行動を把握し、その人らしい生活が出来るよう努めている。入居者同士で会話できるスペースの確保や、互いに助け合えるような人間関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供を行なっている。コロナ禍になってからは、退居後に近況報告の電話など頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段生活の中での会話や言葉の関わりから、本人の希望や意向の把握に努めている。またミーティングや定例会の際に継続して行いたいことなど、意向に沿うように検討し取り組んでいる。	入浴時など職員と1対1で落ち着いて過ごせる時間に、利用者の思いや意向をじっくり聞き取るよう努めている。また、生活の中で、いつもと違う言動や行動に留意し、本人の意向や希望を把握し、ミーティングや会議の中で本人本位に検討している。現在、意志表示ができる利用者が殆どである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集したり、定期的なアセスメントだけでなく、入居後の会話や普段の行動の中から情報収集し、本人の能力が発揮できるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人過ごし方を観察しながら、個別ケアが出来るように努めている。またミーティングや申し送り等で、職員全員が情報共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントから、本人や家族の要望を次回の介護計画に反映させている。また介護計画については、職員が確認できるように置き、情報を共有している。	担当職員がアセスメントを行い、利用者の希望や思い、日々の生活の中での言動を24時間シートに記録している。それを基に毎月の定例会議で話し合い、家族の意見を確認しながらケアプランを作成し、3か月ごとに見直しをしている。状態が変化したときは、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やご家族からの情報、個別記録や申し送りノートを活用し情報の共有を徹底している。業務内容や対応等について、毎月の定例会議で見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに応じて、気分転換を兼ねて外出等を行っている。季節や天候、体調に合わせた活動を臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は職業体験や町の行事に参加していた。コロナ過となり受診等は有償ボランティア、訪問美容も利用し地域の方の力を借りている。また作品等を公民館等に展示などしながら楽しみある暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切に、日々のデータや状況報告書等を持参して頂いている。状況に応じて職員同行し適切な医療を受けられるよう支援している。有償ボランティアを活用の方も情報を共有しスムーズな受診対応が出来ている。	家族対応によるかかりつけ医への継続受診を基本としている。家族が遠方の場合、有償ボランティアを利用していただいている。受診の際は、バイタル表に利用者の状態等を記載して主治医に情報伝達を行い、結果は口頭又はFAX(有償ボランティア)で報告を受け職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良やバイタル異常が観られた際は、隣接する同法人の看護師へ連絡し、その都度対応いただいている。また、通常の状態を把握できるよう隣接施設とも交流を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行ない、入院中も医療相談室や家族と連携を図り情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化はその都度家族へ報告し、必要に応じて受診等を依頼している。申し込み時や入居の際に重度化や終末期に向けての方向性を説明し、家族の同意を得ている。また、状態急変時の対応など会議で話をしている。	「重度化、終末期の対応に係る方針」を作成している。契約時に、看取りを行っていないことを家族や本人に説明し、納得して入居して貰い、入居の段階で特別養護老人ホーム等への入所申し込みを勧めている。経口摂取が困難になった段階等で主治医や家族と相談して家族の希望に基づき介護医療院や病院への移行を支援している。	入居時に方針を説明し看取りを実施していないことへの理解を得て署名捺印を貰っているが、方針の内容は看取りを実施すると解釈され、実態と異なっているため、整理のうえ整合性を図ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを作成いつでも目の通せるようにしている。緊急時の持ち物もすぐに持ち出せるよう準備している。夜間緊急時の職員の協力体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施し、火災や地震、災害等、日中や夜間想定など計画を立て実施している。食事に非常食を取り入れたり、また、敷地内合同で通報訓練も実施している。	年1回の消防署立会いの総合訓練を含め、年間計画に基づき、毎月火災や地震、風水害、夜間など様々な想定での避難訓練を実施している。コロナ禍前は、運営推進会議委員の参加を得て避難訓練を実施しているが、地域住民の参加や協力体制は得られていない。なお、災害発生時には警備会社の職員が駆けつけることになっている。	災害発生時に関する警備会社との具体的な契約内容や協力員氏名などについて未確認であるため、確認のうえ協力員との具体的な支援内容の確認や打ち合わせ等の実施が望まれる。その他に、運営推進会議の委員等を通して地域住民との協力関係の構築に向けた取り組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の程度や、性格や状態を把握した上でひとりの人として接するよう心がけている。また、その人に応じて声掛けの内容や返答方法などを考え実施している。尊厳を守るためにも、接遇について定例会議の中で話し合いをしている。	利用者の意思を尊重し、本人の希望に沿って支援することを心がけている。また、日頃のケアの中で「人生の先輩」であることを心に留め、ぞんざいな態度や命令口調の言葉遣いにならないよう心がけている。特に排泄介助では利用者の自尊心や羞恥心に配慮した言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者の方の能力に応じて声掛けなど対応を工夫し選択肢を提示しながら、自己決定が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、生活サイクルを崩さない程度に、気分や体調に応じた生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類選びの選択や、希望により訪問美容を利用し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理や片付けなど無理のない範囲で職員と一緒にいる。また季節の食材や行事食など、楽しめるよう入居者と一緒に検討し対応している。	毎日、利用者の希望を聞きながら献立を作り、職員がスーパーから食材を購入し利用者と協力して食事づくりを行っている。利用者は、米とぎ・食材切り・調理・味見などそれぞれができる範囲で食事づくりに参加している。誕生日には本人の希望の食事を提供し、年に数回は弁当や寿司などのテイクアウトを行って楽しんで貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、毎食ごとに記録をしている。またバランスの摂れた食事が出来るよう委員会で検討し、入居者に合わせた食材の大きさや補助具の活用等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや見守りを行っている。就寝時には義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔を保つよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄能力に応じた声掛けや、トイレ誘導を行い状況を観察し、出来るだけトイレで排泄が続けられるよう努めている。パットの使用状況については夜間の睡眠の質も家族と相談のもと行っている。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し時間を見てトイレに誘導している。また「そわそわ感」など利用者の仕草を観察して適宜、声をかけトイレで排泄できるように支援している。自分でトイレを認識できない利用者でも介助してトイレで排泄できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便感覚や排便チェック、間隔を観察しながら、水分摂取量や乳製品、食物繊維(野菜やキノコ類)など摂れるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備し、本人の希望や体調に合わせて入浴して頂いている。夕方から入浴を行っている。	入浴の時間帯は午後3時半から6時頃として毎日、入浴できるよう支援している。浴槽を跨ぐのが困難な利用者もいるが支援しながら全員が浴槽につかってゆっくり入浴している。たまに入浴剤を使用したり、季節に応じて菖蒲や柚子を入れて楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて、好きな場所で休息して頂いている。夜間も安眠できるよう、日中の活動量の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更等は申し送りに記入し職員全員が把握できるようにしている。一人一人が薬について把握、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の能力を活かし、自分の役割などもって頂いている。余暇活動や季節の作品作り等の楽しみを計画したり、気分転換が図れるような対応を心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて近所への散歩や、状況に応じて希望する場所へドライブを行っている。受診等での外出は、家族や有償ボランティアの協力を頂いている。	以前は日常的に買い物や近隣への散歩を行っていたが、現在は外来受診時の外出程度になっている。なお、週に2～3回程度、天気の良い日には順番でテラスのベンチで外気浴を行ったり周囲の散歩をしている。また、春と秋の2回、桜や紅葉の時期にドライブに行ったり帰宅願望の強い利用者には実家を見に外出するなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	町内の商店で、いつでも買い物が出来るよう体制を整えている。本人の希望など家族に伝えながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に会話ができるよう本人、家族へ伝えて支援している。また携帯電話持参の方は定期的に家族との会話を楽しんだり、定期的に家族に絵手紙など作成し郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、季節に合わせた掲示物を一緒に作成し掲示することで、四季を感じてもらえるようにしている。また季節の作品を飾ることで、次の作品作りを楽しみにしている。	リビングには利用者の習字や季節に応じた職員との共同作品の貼り絵等を掲示している。また、ソファや和室に掘りごたつが設置され、利用者が好きな場所で寛げるように配慮している。職員が温度や湿度の調整を行い、キッチンの小窓や昼の休憩時間帯に天窓を開けて換気に気を配り健康で快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やホールのソファ、キッチンのカウンター席など、その時の気分や体調で自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族の写真や馴染みの品物など持参して頂き、その人らしい居室環境を作っている。自身の作品を掲示したり、居心地よく過ごせるよう支援している。日々の清掃も職員と一緒にいき清潔保持に努めている。	居室には、ワードローブ・タンス・ベッド・ソファ・空気清浄機・エアコン・洗面台が備え付けられている。利用者は、位牌やテレビ、ラジオなどを持ち込み、家族の写真を飾り、その人らしい部屋づくりをしている。職員は、入居時に家族と相談しながら自宅で使用していた部屋同様になるようベッド等の配置をアドバイスして快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを全体的に設置しており、歩行器等でも移動しやすいスペースとなっている。各居室に暖簾を下げることで個別化しプライバシーに配慮しながら自室が認識出来るよう努めている。		